北原白秋氏の肖像

木下杢太郎

青空文庫

……願ふは極秘、かの奇しき紅の夢……（「邪宗門」）

性慾の如くまつ青な太陽が金色の髪を散して、
異教の寺の晩鐘の呻吟のやうに高らかに、然しさびしく、
河の底へ……底へ……底へ……と沈む時に、
幻想の黒い帆前は
滑つて行く……音もなく……
明るい灰色の硝子の外で、
氏は倚れる窗の後で——。
されば其光の顫音は悲しく、
氏の銅色の額に反射した。——恰ら
青の鶯が落日の檣の森で鳴くやうに……
雲の彼方の蘆薈花咲く故郷へ、故郷へ、ねえ、故郷へ……。

氏は卓の一角から罪色紅の〔Curaçao〕《きゆらさお》を取つて
薄玻璃の高脚杯に垂した……重く……緩かに……。
その懐しい錯心のやさしい呼吸づかひの中に、
赤、紺青、土耳古珠色、「黄なつぽい」Sentiment 色、
そのあまり日向つぽ過ぎる新しい（やや似合はない）
背広の文の音楽に首を埋めて
（かの邪宗、その寺の門前に梟首れた怪僧の額のやうに）
烈しい異国趣味に飢ゑ爛れた氏の表情は、
新に南洋から帰つた商船の事務員の如く、
ひたすら卓上の罌粟の脣を見詰めて居る。

（かの黒い幻想の帆前は力なく黙したのに——。）
秋の日曜日の雑沓を恐るる象、
その如く濁つた瞳、瞳の中の青い花は、
日本の——厭いた、労れた
昼の三味、女の島田、音も低い曲節から、
ああ、せめては中に雑る合惚の進行曲から、
『空にまつ赤な雲の色、玻璃にまつ赤な酒の色』から、
河に面した厨の葉牡丹の腋臭から、
日を受けたタンク蒸気の引いてゆくCadence《かだんす》から、
はた其かげの痛ましい※古聿の
とぎれとぎれのStrauss《しゆとらうす》、Gauguin《ごうぎやん》
の曲調の
うち絶えつ、またも響く柔い薫のうちから、
氏の厚い紫の脣は苺の紅い霊魂を求めて居る。
瞳の青い羅曼底は忘れた故郷の香を捜して居る。
日が暮れるまで……

日本の憂鬱な十月の夜の彼岸に
寂しい三味線が●ちん●ちんと鳴り出すまで、
なほも善主麿、おおらつしよの祈をつづけながら……
無益にも……

月の方に青ざめた帆前の黒い幻想を眺めながら……

青空文庫情報

底本：「書物の王国13　芸術家」国書刊行会
　　1998（平成10）年10月25日初版第1刷発行
底本の親本：「木下杢太郎全集1」岩波書店
　　1981（昭和56）年5月
入力：土屋隆
校正：川山隆
2006年12月30日作成
2007年1月28日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

北原白秋氏の肖像

木下杢太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/